

自らの関心を広げる学びを

気象庁は今日7月31日(金)、近畿地方の梅雨明けを発表しました。平年より10日ほど遅いとのこと。関東の梅雨明けは、1学期の終業式には間に合いませんでした。週末以降になりそうです。ただ、雲間から少しでも日差しがのぞけば、体感気温はぐっと上がります。感染症対策だけでなく、熱中症や交通事故などにも十分注意して夏休みを過ごしてください。

梅雨明けなどは待ってられないとばかりに、校内の蟬の鳴き声は大きくなっています。ところで、小さい子供は何歳くらいで「セミ」という言葉を覚えるのでしょうか？ かなり小さい子供でも使っているような気がします。ふと、「セミは英語で何ていうのかな？」と考えてしまいました。あまり覚えた記憶がないからです。チョウチョやトンボは何か言えそうな気がします。カブトムシもドイツ製の車の愛称で使われていたので、思い出せましたが、セミだけでなく「クワガタ」も英語で何というか調べた記憶はありません。仮に、英語圏の小さな子供と会話をしようとしたら、この状態は“無視”できません。中学から大学まで、カリキュラムの中では英語を学習しましたが、与えられたテキストばかりに頼っていた自分を反省しました。(いい歳をして何言ってるんだという声が聞こえそうですが)自ら関心を広げて、「これを英語で何というんだらう」とか「どんなふうに表現するんだらう」というように、テキスト以外のことにも目を向ければ良かったなあと思いました。

こうしたことは、英語だけでなく、他の教科・科目についても言えると思います。先日、2年生の物理の授業を見学させていただきましたが、身近な例を題材に取り入れながら授業が展開されていました。例えば、「重心」を扱っていた中で、ファミリーレストランのテーブルの上などに置いてある請求書などを入れる円筒形の筒が、なぜ斜めに切ったような(門松の竹のような)形になっているのか、ということも考えさせていました。目から鱗でした。学校で学ぶ知識は、時の経過と共に使えなくなっていくものもたくさん出てきます。変化の激しい時代です。自ら学び、アップデートしていく姿勢が必要です。

自らの関心を広げる学びでは、図書館の利用はとても有効です。今は、新型コロナウイルス感染症に関するニュースが多くなっていますが、感染症に関しても、さまざまな資料が図書館にはそろっています。ネットからの情報とは違う学びを行うことが出来ます。自らの関心を広げる学びをしてみてください。英字新聞もありますので、皆さん一人一人にあった利用をしてほしいと思います。

余談ですが、セミを和英辞書で調べ、その発音を知って、ギョッとしました。発音には気をつけたいと思います。

セミの次はカエル？

「ゆでガエル理論」を思い出してしまいました。新型コロナウイルスの新たな感染確認が日々増加している今の状況や、結果的には誤報であった先日の緊急地震速報への反応などに際してです。

「ゆでガエル理論」とは、ゆっくりと進行する危機や環境変化などに対応することの大切さ等に関してのものです。カエルは熱湯の中に入れた場合には驚いて飛び出すけれども、常温の水に入れてから徐々に温めていくと、その温度変化に慣れていき、生命の危機と気付かず逃げ出さないでゆであがってしまうという話です。似たような考えについては、「正常性バイアス」という言葉もあります。バイアス(bias)というのは、心理学的には「偏見」「先入観」「思い込み」などと定義されます。

変化がゆっくり進むと次第に慣れてしまい、対応する時機を逸してしまうことがあります。また、煙たい臭いなどの異常性を感じた際などに大したことないのではないかと、異常性を過小評価し正常な範囲のなかにそれを留めてしまうように心が作用することがあります。

もちろん小さな変化や出来事の一つ一つにいちいち反応していれば、心の平穏が保てませんので、自分に直接影響がないと判断できるようなことに対しては、正常の範囲と認識して自分の心を守っているのだといえます。慣れるということも必要な面はあります。しかし、知らないうちに取り返しのつかない変化が起こることもあるのです。小さいエラーをこのくらいならばと見過ごしていたり、その積み重ねを毎日見ているうちに、いつしかそれが日常となり、やがて大きな事態を招く要因にもなり得るのです。危機を認識したときには致命的なダメージになっていたということは、多くの経験が教えてくれています。

長いスパンで傾向や趨勢を、事実(データ)に基づいて考えるときには、常に悲観的になる必要はないと思いますが、身近な危機、現在の状態について判断する場合には、ましてやそれが対策や行動を伴う場合には、自分は楽観的になりすぎていないだろうかという問いかけが必要であると思います。

日々の学習の成果もすぐに変化・成果となっては表れません。だから悲観的になる必要はありません。しかし、「今の・今日の」怠惰については、危機感を持った行動変容が必要だと思います。